

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム 西春の泉		
所在地	愛知県北名古屋市鍛冶ヶー色西2丁目100番		
自己評価作成日	平成27年11月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2397400058-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園に力を入れおり入居者様やご家族様と種まきや収穫などを実施しており、収穫後は皆さんと一緒に召し上がっております。また四季折々の行事などにも力を入れており、大きな行事の際にはご家族様にもお声掛け行い一緒に参加して頂いております。また今年度7月よりは毎月発行しています「きんもくせい新聞」では各居室担当者にコメントを記入して頂いております「ご家族様」よりはコメントがある事により「状況」が凄く伝わるとの声を数件頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代に伴い、現在外出支援に力を入れている。日常生活の中で外に出る機会として、毎日の買い物、散歩、喫茶、外食や行事の外出、家庭菜園等がある。今年初めての試みで夜に「なばなの里」へ出かけた。光り輝くイルミネーションはとても好評で、無理と思っていた職員がチャレンジしたことで意欲的になったと訪問調査時に聞くことができた。また、今年のホーム夏祭りは職員が浴衣を持参し利用者が着用し楽しんだ。掲示されている写真の素敵な笑顔から楽しさが伝わってくる。理念の1つ「おもいやりと笑顔あふれる暖かい環境作りをします。」を感じた場面であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所4年目で管理者始めユニットリーダーや主要職員が新たに加わりようやく安定してきている。今後も新規職員・既存職員で共有を深め実践につなげていきたい。	ホーム理念を事務所、各フロアに掲示している。管理者は利用者本位の支援を現場やミーティング等で話し周知に努めている。今後改めて全職員で理念について取り組む予定である。	理念を振り返り、具体的な目標(年度又は月次)を明確にし職員全員で取り組むことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	7月より職員が充足し、毎日近隣のスーパーに買い物に出掛けられるようになってきている。また毎月最低3回は近所の喫茶店を始め外食に出掛けている。	毎日の食材の買い物に利用者と近隣のスーパーに出かけている。民生委員からの地域情報を活用し、2か月に1度公民館で開催している北名古屋体操に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々地域住民への理解が広めれないがご家族様や問い合わせのある方には日頃実施している範囲でお伝えはしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催「市役所介護福祉課」「地域包括支援センター」「民生委員」「ご家族様」に参加して頂き「施設内での出来事など報告を行ったり・情報交換」を行いサービス向上に努めている	市・地域包括支援センター・民生委員・家族が参加し年6回開催している。会議はホームの報告を中心に様々な意見交換の場となっている。家族参加を促すために運営推進会議出席の案内を送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	気になる事などあれば随時連絡を行い状況報告を行っている。また困難事例などは常に相談・協力関係が出来るように努めている	入居状況をFAXで市役所に送るなど情報提供をしている。また、相談などは電話や訪問し協力を仰いでいる。今期は成年後見制度の研修に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束についての資料配布を行い申し送りノートにも記載を行い周知徹底を行っている。昨年まではフロアも施錠していたが最近は常に開放としている。玄関に関しては周辺道路のリスクを配慮して施錠はしているも少しづつ見直しは行っている	身体拘束について勉強会を行い、身体やスピーチロック等をしないよう周知している。また、玄関の施錠など利用者の安全のために行うことも常に話し合いをし、常態化しないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内に虐待の具体例を掲示し周知している。また日頃から職員同士・注意し・声を掛けあい防止に努めている。また入浴時や更衣時にも念入りに確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がいない為周知できておらず。自立支援では個々おニーズに合わせて関係者と相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づいて説明を行い、不明な点を確認し理解につなげている。施設生活においてもいつでも相談して頂けるよう説明し対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などへの参加を含め意見・要望を話しやすい環境作り信頼関係の構築に努めている。	家族の来訪時や運営推進会議、家族会などで意見を聞き取っている。居室担当者が利用者の様子を手書きの便りとして発信するなど、信頼関係が深まるよう丁寧な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや申し送りノートを活用し常に現場の意見や提案を受け入れ反映できるように努めている	月1回、各ユニットの会議がある。課題は次のミーティング時に振り返っている。職員の提案は話し合い実現に努めている。ケア向上のためもっと話し合いの場を増やしてほしいとの職員の声もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に現場を把握を行い、なにかあれば会社に相談を行える職番環境作りに取り込んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場での経験と共に必要な研修へ参加して頂きスキルアップできる職場環境作りに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間での交流や法人としての研修参加、応援という形で他事業所へ研修に行き交流の機会を設けケアの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のお話をゆっくりお伺いしご家族様からも聞き取りを行い職員間で情報共有しながら安心した生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、ご家族様と話をする機会を設け不安な事望んでいる事をお伺いをしより良い関係作りに配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の時には本人・ご家族様の希望をお伺いし必要であれば他のサービスも取り入れてよりよい生活が送れるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でその人のできる事を見つけ役割を持って頂く事で共同生活の一員であるという関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際には日頃の様子などお伝えをし入居者様にもご家族様の存在や想いが伝わる様支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た方とはゆっくり過ごせるよう環境に配慮し馴染みのスーパーへ買い物に行くなど今までの生活習慣継続ができるように支援している	食材買い出しのスーパーが利用者の馴染みの場であり、買い物に行くと近所の人と立ち話をしている。また喫茶店でも交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性や状態を把握し共有の時間が持てるよう会話の間に入ったりして楽しく過ごし助け合えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	普段から何でも話せるような関係づくりに努めサービス終了後にも相談・支援しやすいように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言葉や表情コミュニケーションをとりながら希望や意向を把握できるように努めてスタッフ間で共有・記録したり検討している	利用者に寄り添い、表情・仕草・つぶやきをキャッチして思いの把握に努めている。1対1になる外出や入浴の機会では利用者の思いを引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好、趣味などご本人様やご家族様やケアマネージャーから情報収集しアセスメントを行い今後の生活に生かせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの心身状態たできる事の把握に努め、記録や申し送りなどで職員全員で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中から本人の思いを組み取り医療機関関係者の意見や家族が面会に来た際に意見をお伺いし現状に即した介護計画作成に努めている	介護計画を意識した介護記録に努めているが、その人らしさをつかめる記録が少ない。計画の見直しは定期的なカンファレンスで行っている。	利用者のその人らしさ(個別ケア)の感じられる介護計画の作成を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌、申し送りノートなどに記入し職員間で情報共有、統一したケアができるよう話し合いを行い 介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや訪問歯科往診などの支援ができるよう提案。その時々ニーズに対応が出来るよう家族や地域との連携も取りながら良いケアにつながるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや喫茶店月に一度は外食レクを設けて外に出る機会を増やし安全でその人らしく生活できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き「施設往診・通院」を選んで頂いている。通院に関してはご家族様をお願いしている。施設往診に変更の方は「紹介状」などを用意していただき施設往診医との連携を取っている	入居時に希望を聞き、要望があればホーム提携医がかかりつけ医となっている。専門医など家族対応が基本だが、緊急の場合はホームが対応し、家族に連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員と常勤の介護職員を看護係りに置き、情報や気づきなど往診記録に記入して往診医と相談する事で適切な支援が行えるように連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様・ご家族様が安心して治療が受けられる様入院までの状態など情報交換の実施。また入退院時はサマリーなどを提供し今までの生活状況報告も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や必要に応じて話し合いや情報提供を行い医師や看護師連携しながら事業所全体での支援に繋がる様に努めている	看取りなどの経験はないが、家族などの要望があれば提携医と相談し、できるかぎりの支援を行っている。利用者にとって最適な方法をその都度話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数名ずつではあるが普通救命講習に参加を行っている。事務所には事故発生時や急変時の対応を掲示し連絡体制を整え全職員で共有して備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月度に避難訓練を予定していただ都合上実施見送りとなっている。また地域との連携も構築が出来ておらず。職員への周知や定期的な訓練実施が早期の課題となる	年2回の内の1回は11月に行う予定をしている。現在備蓄の用意がないので検討中である。	運営推進会議の開催時に合わせて避難訓練を行うなど、地域住民が取り組みを知る機会となることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の言動や思いを尊重し、その人、その時に合わせた言葉かけを行うように心がけている	トイレ介助や入浴時の羞恥心への配慮をしている。名で呼んでいる利用者もいるが「さん付け」で呼び、誇り・人権を損なわないようにしている。個人情報の取り扱いには十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人は意思表示や自己決定できるような声掛けの工夫などを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の声を聴き思いを組み取りその方に合った生活スタイルで過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時などは職員の主観ではなく入居者様に服を選んで頂き好きな服をきて頂くように心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日一緒に買い物に出掛け出来る範囲ではあるが一緒に調理・盛り付け・片付けを行っている。誕生会や行事の時には入居者様の嗜好に合わせた献立を作成している	利用者と職員が同じテーブルにつき楽しく会話しながら食事をしている。包丁が使える利用者が数名おり、平等に手伝えるように支援している。調理、下膳、片付け等出来る利用者と一緒にいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量や水分摂取量を記録して体調管理に努めている。また体調に合わせた食事形態などにも努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや毎食後の口腔ケアを行いその人に合わせた声掛け・介助・義歯の洗浄を行っている。週1回 歯科往診での予防支援にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた声掛けや誘導を行い記録して排泄パターンの把握や排泄コントロールを行っている。ミーティングなどで定期的な話し合いをしパット使用量を減らせるように支援している	排泄チェック表で各利用者のパターンを把握している。トイレでの排泄を基本にし、一人ひとりに合わせた声かけをしている。身体状況に合わせて夜間のみポータブルトイレを使う利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にチェックしたり声掛けや誘導にて排便状態の確認を実施している、便秘気味の方には水分補給を促したり・乳製品を取ったりして頂き自然排便を目指している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回 本人の体調や気分を伺いながらタイミングを見て声掛け促しを行い無理なく入浴が出来るようにな声かけ支援を行っている	利用者が入りたいと言えれば可能な限り対応している。入浴拒否には無理強せず柔軟に対応している。柚子湯・菖蒲湯等で季節を感じるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分を配慮しながら日中でも気兼ねなく休息が出来るような声掛け支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬情をファイリングしていつでも確認できるようにし誤薬などが無い様に確認表を導入して管理している。また薬の変化時などはバイタルサインなどを含め注意深く観察を実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思ややる気を尊重して家事など参加して頂いたり、買い物や散歩、喫茶レクなど外出の機会を増やし気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食レクや喫茶レク、買い物や散歩など出掛ける機会を増やしている。家族などにも協力をして頂き喫茶店へ行くなどの外出も実施中	9月に管理者が交代してから毎月3回を目標に外出している。幼稚園に訪問したり、外食、喫茶、初めて夜の外出に挑戦(なばなの里)した。家族の協力も利用者の喜びに不可欠である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は少額程度持っていて安心感が持てるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家族の了承をいただいて必要に応じて電話の対応を行っている。個人携帯をしている方もあり居室内でかけて頂きプライバシー配慮に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は落ち着いた雰囲気を中心掛け壁にはカレンダーや行事の写真・季節に合わせた飾り付けをして居心地良く過ごせるように配慮している	フロアは広く全体を見渡せる空間になっている。利用者の居室の扉には利用者の写真を張り迷わないよう工夫している。行事の写真や季節が感じられる飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は決めずに自由に座って頂き入居者様同士が良く交流出来るように配慮し一人でものんびり過ごせるような居場所作りに心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や備品など自由に置かれている。それぞれ担当者がいて整理整頓したりその方の写真や作品などを飾りその人らしさを工夫している	使い慣れた調度品、趣味の作品、家族写真、化粧品等思い思いのものが持ち込まれている。家族が協力して清潔で居心地良い雰囲気の居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況や認知症症状に応じてできる事を見つけ役割を持って頂く事で安全かつ自立した生活が送れるよう取り組んでいる		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム 西春の泉		
所在地	愛知県北名古屋市鍛冶ヶー色西2丁目100番		
自己評価作成日	平成27年11月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosovoCd=2397400058-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園に力を入れおり入居者様やご家族様と種まきや収穫などを実施しており、収穫後は皆さんと一緒に召し上がっております。また四季折々の行事などにも力を入れており、大きな行事の際にはご家族様にもお声掛け行い一緒に参加して頂いております。また今年度7月よりは毎月発行しています「きんもくせい新聞」では各居室担当者にコメントを記入して頂いております「ご家族様」よりはコメントがある事により「状況」が凄く伝わるとの声を数件頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所4年目で管理者始めユニットリーダーや主要職員が新たに加わりようやく安定してきている。今後も新規職員・既存職員で共有を深め実践につなげていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	7月より職員が充足し、毎日近隣のスーパーに買い物に出掛けられるようになってきている。また毎月最低3回は近所の喫茶店を始め外食に出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々地域住民への理解が広めれないがご家族様や問い合わせのある方には日頃実施している範囲でお伝えはしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し「市役所介護福祉課」「地域包括支援センター」「民生委員」「ご家族様」に参加して頂き「施設内での出来事など報告を行ったり・情報交換」を行いサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	気になる事などあれば随時連絡を行い状況報告を行っている。また困難事例などは常に相談・協力関係が出来るように努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束についての資料配布を行い申し送りノートにも記載を行い周知・徹底を行っている。昨年まではフロアーも施錠していたが最近は常に開放としている。玄関に関しては周辺道路のリスクを配慮して施錠はしているも少しづつ見直しは行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内に虐待の具体例を掲示し周知している。また日頃から職員同士・注意し・声を掛けあい防止に努めている。また入浴時や更衣時にも念入りに確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がいない為周知できておらず。自立支援では個々おニーズに合わせて関係者と相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づいて説明を行い、不明な点を確認し理解につなげている。施設生活においてもいつでも相談して頂けるよう説明し対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などへの参加を含め意見・要望を話しやすい環境作り信頼関係の構築に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや申し送りノートを活用し常に現場の意見や提案を受け入れ反映できるように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に現場を把握を行い、なにかあれば会社に相談を行える職番環境作りに取り込んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場での経験と共に必要な研修へ参加して頂きスキルアップできる職場環境作りに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間での交流や法人としての研修参加、応援という形で他事業所へ研修に行き交流の機会を設けケアの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のお話をゆっくりお伺いしご家族様からも聞き取りを行い職員間で情報共有しながら安心した生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、ご家族様と話す機会を設け不安な事望んでいる事をお伺いをしより良い関係作りに配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の時には本人・ご家族様の希望をお伺いし必要であれば他のサービスも取り入れてよりよい生活が送れるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でその人のできる事を見つけ役割を持って頂く事で共同生活の一員であるという関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた際には日頃の様子などお伝えをし入居者様にもご家族様の存在や想いが伝わる様支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た方とはゆっくり過ごせるよう環境に配慮し馴染みのスーパーへ買い物に行くなど今までの生活習慣継続ができるように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性や状態を把握し共有の時間が持てるよう会話の間に入ったりして楽しく過ごし助け合えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	普段から何でも話せるような関係づくりに努めサービス終了後にも相談・支援しやすいように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言葉や表情コミュニケーションをとりながら希望や意向を把握できるよう努めてスタッフ間で共有・記録したり検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好、趣味などご本人様やご家族様やケアマネージャーから情報収集しアセスメントを行い今後の生活に生かせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの心身状態たできる事の把握に努め、記録や申し送りなどで職員全員で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中から本人の思いを組み取り医療機関関係者の意見や家族が面会に来た際に意見をお伺いし現状に即した介護計画作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌、申し送りノートなどに記入し職員間で情報共有、統一したケアができるよう話し合いを行い 介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや訪問歯科往診などの支援ができるよう提案。その時々ニーズに対応が出来るよう家族や地域との連携も取りながら良いケアにつながるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや喫茶店月に一度は外食レクを設けて外に出る機会を増やし安全でその人らしく生活できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き「施設往診・通院」を選んで頂いている。通院に関してはご家族様をお願いしている。施設往診に変更の方は「紹介状」などを用意していただき施設往診医との連携を取っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員と常勤の介護職員を看護係りに置き、情報や気づきなど往診記録に記入して往診医と相談する事で適切な支援が行えるように連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様・ご家族様が安心して治療が受けられる様入院までの状態など情報交換の実施。また入退院時はサマリーなどを提供し今までの生活状況報告も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や必要に応じて話し合いや情報提供を行い医師や看護師連携しながら事業所全体での支援に繋がる様に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数名ずつではあるが普通救命講習に参加を行っている。事務所には事故発生時や急変時の対応を掲示し連絡体制を整え全職員で共有して備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月度に避難訓練を予定していたが都合上実施見送りとなっている。また地域との連携も構築が出来ておらず。職員への周知や定期的な訓練実施が早期の課題となる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の言動や思いを尊重し、その人、その時に合わせた言葉かけを行うように心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人は意思表示や自己決定できるような声掛けの工夫などを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の声を聴き思いを組み取りその方に合った生活スタイルで過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時などは職員の主観ではなく入居者様に服を選んで頂き好きな服をきて頂くように心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日一緒に買い物に出掛け出来る範囲ではあるが一緒に調理・盛り付け・片付けを行っている。誕生会や行事の時には入居者様の嗜好に合わせた献立を作成している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量や水分摂取量を記録して体調管理に努めている。また体調に合わせた食事形態などにも努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや毎食後の口腔ケアを行いその人に合わせた声掛け・介助・義歯の洗浄を行っている。週1回 歯科往診での予防支援にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた声掛けや誘導を行い記録して排泄パターンの把握や排泄コントロールを行っている。ミーティングなどで定期的話し合いをしパット使用量を減らせるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にチェックしたり声掛けや誘導にて排便状態の確認を実施している、便秘気味の方には水分補給を促したり・乳製品を取ったりして頂き自然排便を目指している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回 本人の体調や気分を伺いながらタイミングを見て声掛け促しを行い無理なく入浴が出来るようにな声かけ支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分を配慮しながら日中でも気兼ねなく休息が出来るような声掛け支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬情をファイリングしていつでも確認できるようにし誤薬などが無い様に確認表を導入して管理している。また薬の変化時などはバイタルサインなどを含め注意深く観察を実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思ややる気を尊重して家事など参加して頂いたり、買い物や散歩、喫茶レクなど外出の機会を増やし気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食レクや喫茶レク、買い物や散歩など出掛ける機会を増やしている。家族などにも協力をして頂き喫茶店へ行くなどの外出も実施中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は少額程度持っていて安心感が持てるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家族の了承をいただいて必要に応じて電話の対応を行っている。個人携帯をしている方もあり居室内でかけて頂きプライバシー配慮に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は落ち着いた雰囲気を中心掛壁にはカレンダーや行事の写真・季節に合わせた飾り付けをして居心地良く過ごせるように配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は決めずに自由に座って頂き入居者様同士が良く交流出来るように配慮し一人でものんびり過ごせるような居場所作りに心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や備品など自由に置かれている。それぞれ担当者がいて整理整頓したりその方の写真や作品などを飾りその人らしさを工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況や認知症症状に応じてできる事を見つけ役割を持って頂く事で安全かつ自立した生活が送れるよう取り組んでいる		